教育目標 「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる 」

志　学校だより

R4 .10 .6

四日市市立内部中学校　第 23 号

○○の秋

体育祭が終わり、１０月３日・４日（２年生は５・６）に中間テストを実施しました。生徒たちは真剣に答案と向かい合っていました。１０月に入り、体操服登校が終了したので、全校生徒が制服姿に戻りました。「秋」と呼ぶには、まだ暑さを感じる日もありますが、日一日と「秋」の気配が感じられるようになってきています。

さて、みなさんは、「○○の秋」と言われると、どのような「秋」を連想するでしょうか。職員室で先生方に質問したところ、様々な答えが返ってきました。「**食欲**」「**読書**」「**スポーツ（運動）**」「**紅葉**」「**旅行（行楽）**」「**芸術**」と様々でした。中には「勉強（研修）の秋」と答える先生もいました。「紅葉」は確かに秋ですが、その他の「食欲」「読書」「スポーツ」については、別に「秋」でなくてもよさそうです。「○○の秋」と表現されるようになった由来について考えてみたいと思います。まず、暑くも寒くもなく過ごしやすい気候であることが挙げられます。身体を動かすことにも適していますし、集中して物事に取り組むことができます。ですから、「芸術」や「勉強」に適している季節だと言えます。「運動」については、1964 年に東京オリンピックが開催された際に開会式の日である 10 月 10 日が「体育（現在はスポーツ）の日」として制定されたことも影響していることでしょう。「読書」に関しては、夜が長くなってきたことも関係しているでしょう。「食欲」に関しては、涼しくて食欲がわくこともありますが、実は深い理由があります。それは、現代は栽培技術や輸送手段が発達しているので、季節に関係なく美味しいものをたくさん食べることができます。しかし、昔はそうではありませんでした。食べ物は季節に応じて収穫されており、季節によって収穫できる作物が決まっており、量もバラバラでした。そして、四季の中で一番食べ物を豊富に収穫できる季節が「秋」だったのです。このことから、「収穫の秋」といわれるようになり、「食欲の秋」にもつながっています。美味しいものをたくさん食べて、「秋」を楽しみたいです。

総じて過ごしやすい季節である「秋」に、様々なことを体験したり集中して取り組んだりしたいものです。みなさんの中には「睡眠の秋がいい」と考える人もいるかもしれません。上記以外にも「音楽の秋」や「趣味の秋」と言う人もいます。「秋」は素敵な季節ですので、みなさんの考えに合った、有意義な時間の過ごし方ができると良いです。

本の紹介

『１３歳からの地政学 カイゾクとの地球儀航海』 田中孝幸（著） 東洋経済新報社（出版）

物語は、高校生の兄と中学生の妹、そしてアンティークショップのオーナー（兄妹は「カイゾク」と呼ぶ）とのやりとりを中心に進んでいきます。事の発端は、兄妹が店先で地球儀（ディプロマット）を見つけたことです。「カイゾク」からの７回のレッスンを通して、兄妹が地球儀を見たり触ったりしながら学んで行きます。最新の「国際情勢」等について読者も一緒に学べる内容となっています。

物語の中で本のタイトルにある『地政学』という学問を、みなさんは知っているでしょうか。『地政学』とは、地理的な条件に注目して、軍事や外交といった国家戦略、また国同士の関係などを分析、考察する学問です。『地政学』がわかれば、「地理」や「歴史」を学ぶだけでは理解できない、「国際情勢」「歴史問題の本質」「ニュースの裏側」「国同士のかけひき」が見えてきます。

欧米では、若いうちから『地政学』等を学ぶことで、自分の生き方やビジネス戦略を練るという考え方が定着しているそうです。それに対して、本書に書かれているような内容を知らない日本人はおそらくとても多いのではないかと思います。それだけに、これからの時代を過ごしていくみなさんにとって、とても学ぶことの多い一冊だと思います。中学生の頃から本書のような内容を今知っておくと、これからの世界の見え方が大きく変わり、『日本』という国を、客観的な視点で見られるようになることでしょう。また、中高生にとどまらず、社会で働いている大人にとっても読む価値が高い本だと感じました。複雑な「国際情勢」の経緯等も、報道で見聞きする以上にすっと頭に入るはずです。　※７回のレッスン内容は以下の通りです。

１日目「物も情報も海を通る」　２日目「日本のそばにひそむ海底核ミサイル」
３日目「大きい国の苦しい事情」　４日目「国はどう生き延び、消えていくのか」
５日目「絶対に豊かにならない国々」　６日目「地形で決まる運不運」
７日目「宇宙から見た地球儀」　　※帯のキャッチコピーは以下の通りです。

「一気に読了、たくさんの人におすすめしたい」糸井重里氏　「大人にこそ読ませたい未来を生き抜く必読書。戦争、平和、日本の行く末を知る羅針盤がここにある！」真山仁氏
「今の日本にこそ求められている一冊！複雑な国際情勢が物語でやさしくわかる」杉山晋輔氏

蛇足になるかもしれませんが、自分が感じたこと、思ったことを以下に紹介します。

本書の内容にある、**「自分の国を大きくしたい（領土を広げたい）。」「自分の国が有利になるようにしたい。そのためには、他国の不利益についてはあまり考えない。」**このような考え方は、身の回りで起こっていることとまったく同じだと思います。また、インターネット等での情報をそのまま信用してしまうのはとても危険なことで、確かな根拠を持った情報を見極める力が必要になってきます。そういった意味では、本書に書かれていることも本当に正しいことかどうかを、他の様々な情報や考えと照らし合わせながら判断することも必要です。また、国と国の関係にも見られるように、立場や見方を変えると、同じこと（真実）がまったく違った捉えになることもあり得ます。**みなさんには、客観的な視点で判断できるようになって欲しいです。**